

Book Review



歯界展望別冊 歯と歯列を守るための歯根膜活用術 DVD ビデオ付

下地 勲・須貝昭弘・千葉英史 編著



Reviewer

丸森英史

(横浜市・丸森歯科医院)

A4 判変, 148 頁
定価 6,090 円
(本体 5,800 円+税 5%)
医歯薬出版刊



本別冊は、2010 年に行われたスタディグループ火曜会 55 周年記念講演会のテーマを基に、著者陣と内容を広げてまとめられたものである。

火曜会は、私が大学を卒業した 1970 年代にはすでに日本で指導的なスタディグループで、多くの臨床家に多大な影響を与えてきた。火曜会の先生方は数々の論文を発表され、歯科臨床に多くの示唆を与え続けてきた。その時々舵取りを担ったり、苦言を呈されたり、時代のご意見番でもあった。

本別冊の序文にある「“置換”医療という語に抵抗感を覚えるなか、歯根膜に注目することで本来生体のもつ治癒力を見直し、歯科医療のあるべき姿を再確認しようというもの」との一文は、この批判精神が受け継がれ、健在であることを物語っている。

目次に見る、「歯を守る」、「歯列を守る」、「抜歯する前に考える」は、本別冊のキーワードであろう。歯根膜を保存する、活用する視点から、一見挑戦的な手技を駆使するが、各著者が見

せる技術の確かさがあり、その意味を納得することができる。しかし、技術があつての成果である。いきなり安易に真似た治療は難しいであろう。付録の DVD は優れた教材であり、研鑽の道しるべとなると思われる。

歯根膜とは、生物が進化のなかで、雑食を得てエネルギー摂取効率を上げるためにやっと獲得した大切な咀嚼のための装置である。X 線写真での診断とは、それを見ているのである。歯根膜という顕微鏡レベルの対象を、臨床のなかから描き切ったのはさすがである。添えられた X 線写真の質は高く、それがなければ歯根膜は語れない。

また、一つの論文を原則 4 ページでまとめた編集も成功している。非常に読みやすい。「歯を守る」という“術”を展開し、「歯列を守る」臨床の進め方、考え方を十分に語っている。技術書ではなく臨床指針への明確なメッセージが満ちている。

本別冊の編集会議は論壇風発であつたらう。いや、あつたはずである。個

性的な著者が多いなか、いきなりこんなにきれいにまとまるはずがない。書き方でなく主張の中身である。その雰囲気伝えるコメントが少しでもあつたらと、惜しむのである。

ここで語られる“置換”医療とはインプラントであろう。この“置換”医療に対する考え方が、著者によって微妙に異なるところも面白い。世の大勢としてどちらの方向に行くのか私には見通す力はないが、時代を永く見てこられた著者らの貴重な「ちょっと待てよ」との主張には共感する。歯根膜の存在意義とインプラントの間でどのように折り合いをつけていくのか、これからの課題であろう。

さらに、大学の研究者の先生方が書かれた最先端の解説は、これからの臨床と基礎に橋を架けるようなトランスレーショナル・リサーチの方向性を示唆する貴重な内容である。

歯科大を卒業された直後の方から時代の先端を歩む方まで、多様な読み方ができる、お薦めしたい別冊である。